

Y07a 市民天文学プロジェクト GALAXY CRUISE の進捗と hscMap 教材開発

白田-佐藤功美子, 田中賢幸, 小池美知太郎, 安藤誠, 内藤誠一郎, 山岡均, 梅本智文 (国立天文台), 伊藤慧 (東京大学), 嶋川里澄 (早稲田大学), hscMap 教材開発チーム

すばる望遠鏡ハイパー・シュプリーム・カム (HSC) を使った大規模戦略枠サーベイ (HSC-SSP) の第2期公開データを用いて、衝突・合体銀河の分類に市民が参加する「市民天文学」プロジェクト GALAXY CRUISE (<https://galaxycruise.mtk.nao.ac.jp>) は、第1シーズンを完了し、2022年4月から、より暗い銀河を含めた第2シーズンを進めている。第2シーズン期間中にサイエンス、普及活動双方で以下の進展があったので報告する。

(1) 2019年11月～2022年4月の第1シーズンの分類結果を使った学術論文が出版された (Tanaka et al. PASJ, 75, 986 (2023))。分類に参加した市民天文学者に研究成果を還元すべく、2023年11月10日に「田中船長による GALAXY CRUISE 学術論文報告」ライブ配信を、すばる望遠鏡公式 YouTube チャンネルから日・英で行った。

(2) 銀河進化の理解を深めるため、2023年9月12日より、シミュレーション銀河を分類する特別キャンペーンを実施している。キャンペーン開始前に、毎月1日にウェブに掲載する「NEWS記事」として、予告を兼ねて科学的意義を掲載した。2023年8月29日に実施した銀河分類実演 YouTube ライブ配信でも科学的意義を説明した。

(3) 学校教員や研究者より、授業や週末の子ども向け科学ワークショップ等で GALAXY CRUISE を使ったという報告を受けることがある。さらに、本プロジェクト分類サイトの母体となっている、HSC 画像の中を自由に巡れる「hscMap」自体を教室に届けるべく、2021年より有志で教材を開発してきた。これらの報告は随時「NEWS記事」として紹介している。hscMap 教材開発については、本「Y. 天文教育・広報普及・その他」セッションにおける、原 (口頭講演)、富田 (3分+ポスター講演) による講演も参照いただきたい。